令和３年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県北会場

科目　⑪保護者との連携・協力と相談支援

◆　保護者との連絡は、連絡帳を使用しておらず、お便りや送迎の際に直接お話をしております。そのため、今回の講義で学んだコミュニケーションスキルについてはとても参考になりました。トラブルについての報告が多くなってしまいがちなため、日頃から日常の様子や良かったと感じたことなどをお話しするようにし、保護者の方と信頼関係を築いていきたいと思います。

◆　本意を伝えること、伝え方の難しさを感じていたが、「伝えたいこと」ではなく「伝わったこと」が真実であり、丁寧な関わりが必要とのことで、自分中心に考えていたことを反省した。保護者との信頼関係の構築は、迎合的な対応では表面的な関係以上には発展せず、ひたすら傾聴、受容、共感的理解から信頼関係が生まれることを理解した。保護者と子どもに共感し、互いの気持ちを肯定的に捉え、子育てを応援する気持ちを持って接していきたい。

◆　保護者は親である前に個別性のある一人の人間であることを念頭に置いて支援しなければと思う。話してよかったという安心感の中でコミュニケーションを取れるよう傾聴の仕方を工夫したい。「伝わったことが真実」ということを常に思いながら、話す内容を絞ったり、伝わりやすい話し方をしていきたい。どうすれば伝わるかを考えながらコミュニケーションを取り、保護者と柔らかな関係を築き、保護者支援につなげていきたい。

◆　「保育者の保護者に対するイメージが、無意識のうちに態度に表れてしまう」という言葉が刺さりました。こちらからは子どものことを伝えているのだけれども、とても不愉快な表情をする方もおり、それがよく理解できなかったのですが、「子育てをほめることは保護者の生き方をほめているのと同じ」ということを知り、その逆は本当に辛いだろうなと感じました。紹介された本を読み、自分のスキルを高め、保護者にも子どもにも嬉しい支援員でありたいと思います。

◆　保護者との連携・協力と相談支援の研修でしたが、子どもを支援するだけではなく保護者とも柔らかな関係になってこそ保護者支援につながるということでした。バイスティックの７原則を一つひとつ良く理解して、相手に伝えたいことが伝わっていなければ改めてアタックの仕方を変える。そういうことをしなければ違う方向にいってしまうので、日頃からコミュニケーションスキルを身に付け、思いやりを伝える関わりをしていきます。